

教育委員会だより

令和6年9月26日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

習慣が人をつくる ～第1回 習慣向上推進委員会～

9月24日(火)に『子どもの習慣向上推進委員会』を開催しました。「自ら求めて習慣を向上させていく子」を育てていくとする本市の特徴的な取組です。今回は、今年度の取組について事務局からお示しし、委員のみなさんにご意見をいただきました。また、それぞれのお立場から家庭・園・学校での実践を発表していただきました。習慣の向上には幼児期からの積み重ねが重要であることや、ここでも二極化の問題が浮き彫りになっていることなどが議論されました。その中から、中野貴博先生(中京大学教授)からご示唆いただいた内容をご紹介します。

■スクリーンタイムは、小学生で横ばい、中学生で微増の傾向にある。学習時間や食事時間の減少は、スクリーンタイムの増加の影響と考えられる。

■体力は、コロナ禍前まで持ち直せるかが危惧されている。思うように運動実践ができなかった環境下での悪い習慣が定着してしまっているのでは…。

■体力と学力の相関はこれまでの研究からも明らか。二つをつないでいるものは「やりぬく力」や「他者と一緒にする効果」などがある。

安全・安心・おいしい給食 ～第1回 食育推進委員会～

9月25日(水)に『食育推進委員会』を開催しました。前述の習慣向上同様、本市の取組に対してご意見をいただきました。主な議題は「学校における食物アレルギー対応」と「食育推進の取組と課題」でした。食物アレルギーをもつ子どもが6%以上いることやその原因食品が多岐に亘ること、そしてその対応の具体について共有しました。保護者代表の委員からは「食材の選定・検収から調理・提供まで、本当にしっかりと管理がされている。」「年々多治見市の対応が充実してきたおかげで安心して給食を食べさせることができる。」、学校代表の委員からは「校内連携に留意しながら安全に給食を提供できている。」「食に関心をもち進んで関われるよう、委員会活動などにも工夫を凝らしている。」などのご意見がありました。食育推進についても、学校における様々な取組や企業とコラボした講座の実施などについて評価いただきました。ご意見をもとに取組をアップデートし、引き続き安全・安心でおいしい給食の提供に努めていきます。

夏休みの力作が一堂に ～第68回 科学作品展～

8月31日(土)と9月1日(日)の2日間、バロー文化ホールを会場に第68回の多治見市科学作品展を開催しました。来場者は合計815名と盛会で、親子連れからお年寄りまで幅広い年代の方に作品を観ていただくことができました。

今年の出品数は436点(小学校424点、中学校12点)と昨年並みでした。年々出品数は減っていますが「科学作品に挑戦しよう!」と覚悟を決めて取り組んだだけのことはあり、なかなかの力作揃い。身近な事象に対して抱いた疑問について調べた作品、豊かな発想から生まれた作品、仮説を立て実験を重ねて検証を試みた作品などバラエティーに富んでいました。中には、同じテーマについて視点や方法を変えながら何年も継続的に取り組んだ大作もありました。

一昔前は、教科の宿題に加え、科学作品も発明工夫作品も読書感想文もポスター製作も何から何までフルコースで課題になっていました。自身を振り返っても夏休みの終盤ともなると親子で焦っていた記憶です…。現在は、やりたいことを選んでじっくり取り組むことができます。その中で培われた探究心や豊かな発想・粘り強さなどは、その子の成長に好影響を及ぼすことでしょう。

「これ、面白い!来年は僕もやってみよう!」と小学校中学年ぐらいの男の子、「大人の発想ではなかなかこんな見方はできない!」とお子さん連れのご夫婦、「〇〇ちゃん、ようがんばったなあ!」と孫の作品に目を細める老夫婦。力作が一堂に会することで、会場内には様々な感動も生まれていました。



深謝 ～教育委員さんのご退任～

任期満了により9月末日をもって木下貴子教育委員が退任されます。2期8年にわたり、保護者代表として本市の学校教育にお力添えをいただきました。きつとご自身のお子さんの成長も重ねながら、お務めいただいていたのではないかと思います。園・学校への訪問時には、子どもたちに温かな眼差しを向けてくださいました。教育委員会会議では、園・学校や教育委員会事務局の取組に深いご理解をいただきました。また、様々な相談にも快く応じてくださり、的確にご助言いただきました。「本当にありがとうございました。」

10月からは、弁護士のお立場から新規にスタートするスクールロイヤーとして引き続き本市の学校教育をご支援いただくこととなります。「よろしくお願いいたします。」

